

萬年栢萬年草もかもめ同様にてよし

棒蘭、など蘭にうめん蘭、風蘭、ひも蘭、かや蘭、石藓、まこ、う蘭等の類は、土へ植ては悪し、へごを打く
だき細かにして、岩ひばの根を細かにし少し交、鉢の下へ炭を多く入、右へごにて植る、又は措まへ
ご等へ植るもよし、魚肥少しはよし、懸水日々澤山懸べし、

麥蘭豆岩石、豆蔦豆こけ等は、措へご石類へ付てよし、付るには鳥をとるもちを措、又は石類へ少
しぬり付、其上へ蔓をもちへ付、はりがねか細きえゆる糸にて巻、極蔭へ置、日々水澤山懸べし、

山谷の産蘭の名目ある品井三角草植土

雙鶴蘭草さぎ、飛鶴蘭、柳蘭、千鳥蘭野岩ちどり

右は古き茅家根の腐りたる塵す、多く付たるは別して吉、右の品干細かに振ひ一合、合土一合
ませ合せ植る、下水時々懸てよし、略○中

蘭の名目ある植土違ふ品井養ひ方

鶴蘭、錦けい、岩石、花蘭、松葉蘭、るびね蘭、くま竹蘭、櫻蘭つるをのばす傳は、六右は合土三合、赤土一
合、川砂一合交合せ植る、松葉の外下肥、豆肥よし、

蘭の名目ある品植土井養方

桔梗蘭、鹿子島蘭、のし蘭、日光蘭、芙蓉蘭、茶蘭、鈴蘭、吉祥蘭、草竹蘭草ちや、紫蘭、菫蘭

紫錦蘭紫おもと

右いづれも合土にてよし、紫おもとの外、下肥を用ゆ、豆肥もよし、

榮蘭、渡り橄欖、並土よし、合土なれば別して吉、下肥を用ゆ、かん蘭は秋肥悪し、本蘭雄蘭の
根同じ成品は、植土皆同様にて吉、持方も同様也、

〔剪花翁傳三五月開花〕蘭、花青色に黄色を含めり、開花五月より七月下旬迄あり、香氣賞すべし、方